

対象学年					
幼稚園・保育園	小学校			中学校	一般
年長	低学年	中学年	高学年		

ネイチャー・クラフト



プログラムの概要

自然が与えてくれた木の葉や枝などを利用して、木工をします。銀河の里キゴ山で活動した思い出が、家に帰った後も残るように、心を込めた作品に仕上がるといいですね。どの児童もていねいに仕上げるできるように、指導者は留意しましょう。

所要時間：1時間程度

銀河の里キゴ山

1. 活動のねらい

- ・自然の素材を使って、「作る喜び」「創作する喜び」を味わう。
- ・自分たちが体験する自然活動と結びつけて、考えさせる。

2. 活動場所

- ・プレールーム、及び、研修室など

3. 準備するもの

- ・(木ホルダー)・・・スライスした木片、紙やすり、ポスターカラー、油性色マジック、鉛筆、色ひも、ヒートン、動植物図鑑など
- ・(竹はし)・・・小刀、紙やすり、油性色マジックなど
- ・(バードコール)・・・木片2つとボルト・ナット、色ひも、ヒートン、油性マジックなど

4. 活動の手順

(1) 事前学習 (銀河の里に来る前の学習)

- ・特になし。

(2) 実際の活動

◎木ホルダー

スライスした木に、キゴ山での思い出や、好きな絵・文を描き入れて、キーホルダーを作しましょう。

- ①自分でスライスした木を選ぶ。
- ②紙やすりで、木の角を丸くしたり、木の切り口をみがいたりする。
- ③描く絵や文を考える。(キゴ山での活動の思い出がこめられるとよい。)
- ④えんぴつで下書きをする。(実物や図鑑を持ってきて、参考にとよい。)
- ⑤色マジック (マーカー) や、色えんぴつ、クレヨン等で、ていねいにぬる。
- ⑥自分の名前を書く。
- ⑦ヒートン1つと、色のついたひも (20cm程度) を指導者からもらい、木の横にねじって差し込む。
- ⑧友だちと出来ぐあい話し合い、描き直したり、付け加えたりする。



◎竹はし

細く切った竹をていねいに小刀で丸くけずり、さらに、紙やすりでこすって、最後に、名前や目印を書き入れて、自分だけの『MY 竹はし』を作しましょう。

(シートを引いた上で作業するとよい。1人に1枚の工作用ベニア板を用意する。)

- ① 自分で2本の細い竹の棒を選ぶ。
- ② 小刀を使って、竹の4つの角を丸くしながら、はしの形に整えていく。

手で持つところは、太く、手になじむように。
はしの先は、細く、食べ物がのりやすいように。
(※ 小刀で指を切らないように)

- ③ はし先は、けずりすぎないように注意する。
(※ 先で目を突かないように)
- ④ 紙やすりを使って、はしの表面をみがいてなめらかにする。
- ⑤ はしの手で持つ所に、自分の名前や目印を書く。
(いったん、できあがった竹はしは、指導の先生に預かってもらう。)
(みんなで、後始末と、そうじをする。)
- ⑥ 実際に、自分の作った竹はしを使って、食事をするとよい。



◎バードコール

(作り方)

- ① 木片2つとボルト・ナットを用意します。
- ② 図のように、上から順番に入れていきます。
(ボルト・ナットは、上の木片をはさむように締めます)
- ③ ヒートンをつけて、ひもを通します。
- ④ きれいにイラストを描いたり、自分の名前を書いたりします。

(楽しみ方)

- ① 山へ行って、鳥を呼んでみましょう。
- ② 木片とボルト・ナットをこすり合わせて、音を出します。
「キュッキュッ」
(本当の鳥の鳴き声に似るように、鳴らし方を工夫しましょう。)
- ③ 飛んできた鳥はどんな反応をするのでしょうか。観察してみましょう。



5. 活動のまとめ

- ・指導者が、上手にできた児童の作品を紹介する。
- ・工作作業の感想や、自分の作品のよいところなどを発表し合う。

6. 活動上の留意点

- ・プレールームで工作する場合は、床にブルーシートを敷いて、その上で行うとよい。(特に、小刀を使う場合は、床を傷つけないように、工作板の上で削る。)
- ・どんな活動でも、最後は、作業した全員が協力してそうじをするように指導する。